



現状と課題

- R5年度県学調平均正答率
 - 4年 国語53.5 (県-10.1)
 - 算数54.8 (県-9.1)
 - 5年 国語50.0 (県-12.7, 伸レベル+2.5)
 - 算数44.2 (県-18.8, 伸レベル-0.2)
- 基礎的な内容の定着度に比べ、思考力・判断力・表現力の育成が不十分。国語は「書く」、算数は「説明」に課題がある。

現状と課題をもとにした仮説

- 「国語科・算数科における表現力の向上～基礎学力の向上を基軸として～」
- 学校組織に対する仮説
 - ・校内研修の充実、ICTの活用、PDCAサイクルの推進
 - 学年全体に対する仮説
 - ・適応問題の分析や振り返り、少人数指導の充実
 - 対象児童に対する仮説
 - ・授業の焦点化、個別指導の充実

事業実施報告

- [通年] 少人数指導
- 4月 校内スクラム会議
 - 5月 県スクラム連絡会
 - 5月 校内授業研究会【国語】
 - 6月 スクラム学校訪問①【算数】
 - 7月 児童実態調査
 - 10月 校内授業研究会【国語】
 - 11月 スクラム学校訪問②【算数】

仮説をもとにした取組内容

取組① 土台となる研究・指導体制づくり

- 日課表
 - ・モジュール学習の導入、月金曜日は全学年5時間授業
- 少人数指導体制組織
 - ・国語T.T指導(4, 5年)、算数少人数指導
- 校内研究組織
 - ・専門部(授業研究部【国語・算数】、調査環境部)
 - 研究推進委員会(管理職、各部長、スクラム教員)
- 校内研修の充実
 - ・教職員が同じ視点をもった授業づくり

取組② 学校全体に対する取組

- 学調結果分析
 - ・視点を明確にした学調結果分析
 - ・学調問題の各教科年間指導計画への位置づけ
- 家庭学習の充実
 - ・中学校定期試験に合わせた集中期間(年3回実施)
- 表現活動の機会の意図的な設定
 - ・「初発の感想」「短作文」で『考え→理由』の記述に慣れる。
 - ・算数で「表現力向上のための重点単元」の設定

取組③ 該当学年に対する取組

- 学習過程、板書、ノート指導の統一
 - ・Eチャレンジの活用
- 分析結果の効果的な活用
 - ・前年度のデータや適用問題の分析結果を学年で共有し、授業改善に生かす。
- 児童同士の教え合い、学び合いの機会の充実
- ICTの有効的な活用

取組④ 対象児童への支援策

- 少人数指導における学習形態、座席の工夫
- PDCAサイクルの視点を踏まえた指導
 - ・適用問題や振り返りでの評価を次時以降に生かす。
- 学習の基礎・基本の内容の習得支援
 - ・九九の定着の見取りと取組
 - ・文章記述における基礎(定型文・助詞)の指導

